

(算数)

「子どもたちの意欲を高め、確かな学力を育む」
—考え・表現する力を高める算数科授業の工夫—

大阪市立豊崎本庄小学校 丸 愛弓・小島知子・奥 郁美

1. 研究主題設定の理由

本校は、学校教育目標「規範意識を持ち、未来を創る子どもの育成」のもと、「楽しい授業」を目指し、教育活動を進めている。平成23年度から5年間は、国語科を研究教科として、読む力や伝え合う力の向上を目指して、「言語活動の充実を図る授業づくり」をテーマに研究を進めてきた。平成28年度からは、これまで国語科の研究で培ってきた言語力を生かして、算数科を研究していくことにした。

本校の児童は、診断テストから四捨五入や概数に関する問題、図、式、言葉を使って書く問題の正答率が低く、課題が見られた。このことから、算数科の基礎的・基本的な学習内容の習得と合わせて、算数的な思考力や判断力を育成したいと考えた。そこで、研究主題を「子どもたちの意欲を高め、確かな学力を育む」、副主題を「考え・表現する力を高める算数科授業の工夫」として指導法の研究を進めてきた。

2. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 授業改善—豊崎本庄2か年計画—

本庄2か年計画として、昨年度の課題を踏まえて同じ場面の授業を行うことで、授業改善に取り組んだ。続けて同じ単元を研究することにより、昨年度の反省をいかした実践ができ、より新たな改善点を見出すことにつながった。今回は6年生と1年生の実践報告を行う。

＜6年生＞単元名「形が同じで大きさがちがう図形を調べよう」

○本時で抑えるポイントの工夫

昨年度は作図の仕方に重点を置いていたが、今年度は辺の長さや角の大きさがどうなるのかということに重点を置き、取り組んだ。また、かき方が分からない児童のために2種類のヒントカードを用意し、2倍の拡大図をかくときのイメージを持たせるようにした。

○思考力・表現力に関する工夫

自立解決の場面では、作図するときどの辺や角の大きさを使ったのかが視覚的に分かるようにした。ペアでの交流では、相手が必要な部分だけを使ってかいているかを互いに確認するようにした。全体の交流では、自分とは違う作図の仕方をしている児童の考えを発表するようにした。

＜1年生＞単元名「のこりはいくつ、ちがいはいくつ」

○板書の改善

挿絵を大きく黒板に提示し、絵が動くしかけを作り、減法の問題場面をイメージしやすくなるようにした。全体での交流では、児童のノートをプロジェクターで映すことで、黒板にブロックを操作するスペースを設けた。

○思考力・表現力に関する工夫

ペアでの交流時に、お互いの作った問題を伝え合うだけでなく、1回目は聞くことに専念し、2回目に机上のブロックを操作させることで、より引き算を意識させるようにした。

視点② 朝学習・補習・家庭学習

本校では、すべての児童に確かな学力を育むため、「朝学」「補習」「家庭学習」の三位一体改革を行ってきた。

＜朝学習＞毎週火曜日と金曜日を計算・漢字の反復練習の時間と決め、取り組んできた。

＜補習＞隔週火曜日の6時間目（1年生は5時間目）をスタディタイムと名付け、補習の時間を設けた。

＜家庭学習＞児童全員が自習学習ノートを作成するようにした。ノートを始める際には、どのような学習を行えばよいのか、進め方のポイントを児童や保護者に伝えるようにした。また、定期的に学校便りや懇談会で児童のノートを紹介することで、児童の意欲を高め、保護者への啓発を図ることができた。教員が学級のノートを持ち寄り、よりよい進め方ができるよう研修会も行った。

視点③ 学習環境

本校の児童は、ある単位で示された量がどれぐらいの大きさになるのか見当をつける、およその量の感覚が弱いという実態があるため、日常的に楽しく単位量についての感覚を養ったり、算数の問題に触れたりすることができるよう、各学年の掲示板上に「算数コーナー」を設けた。

3. 研究の成果と今後の課題

（1）研究の成果

- ノートとリンクした板書を意識することで、学習の内容や友だちの考えが理解でき、考えを深めることができた。
- 具体物、半具体物の提示や壁面掲示により、本時の課題がつかみやすくなり、児童が学習に意欲的に取り組むことができた。
- 児童相互で考えを伝え合う活動を授業に導入したことで、児童に課題を解決する力がついてきた。
- 「朝学」「補習」「家庭学習」を行ったことで、基礎的な算数の力や自発的に学習する姿勢が育ってきた。
- 掲示板を使って、日常的に算数に触れられるようにしたことで、児童の量感を養うことができた。

（2）今後の課題

- 児童が学級の友だちとともに課題に対して、さらに意欲的に取り組んだり、よりよい解決方法を考え深めたりできるような発問や授業の展開を工夫する。
- 児童の学習意欲は高まり、基礎的な算数の力は少しずつついてきているので、はっきりと成果が分かるよう数値化を図っていく。